

令和 6 年度

「運営に関する計画」

中間評価

大阪市立鯉江東小学校

令和 6 年 1 1 月

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（①）番

まとめ役名前（ 梅林 佑馬 ）

進捗状況平均【 B 】

取り組み内容

○児童の実態を把握し、いじめなどの早期発見に努め、その解消に取り組む。

指標

○月1回の生活指導部会において、いじめなどの事案について話し合い、本校のいじめ防止基本方針にのっとり、その解決に向けた学校環境づくりに取り組む。

○校内アンケートにおける「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な選択肢の「はい」と回答する児童の割合を90%以上にする。（選択肢は「はい」「いいえ」の2択とする。）また、否定的な選択肢の「いいえ」と回答した児童については全員に対してなぜそのように回答したのか確認の上必要に応じて指導を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・児童アンケートでは、大多数の児童が肯定的な回答をしている。しかし、少数ではあるものの、否定的な回答をする児童や、いじめアンケートで「嫌なことをされた」「嫌なことをされている人を見た」と答える児童がいるため、考えと行動が一致していない実態が見られる。
- ・職員間では、毎月各学年からの生活指導事案の報告があり、情報の共通理解が図られている。

後期への改善点

- ・「いいえ」と答えた児童への聞き取りの徹底すること。
- ・アンケート結果と児童の行動に差が見られるため、いじめに対する理解が本当にできているかを確認するために新たなアンケート項目を追加することも検討する。
- ・いじめに関する、より具体的な啓発活動や保護者との連携強化、保護者向けの情報発信など外向けの取り組みも行っていく。
- ・実際に即した、いじめ事案をもとに対処策を検討する機会（ケーススタディ）を設ける。

学校運営の計画「学校評価」 中間評価分科会まとめ

取組内容（①） 番

まとめ役名前（浅井 悠人）

進捗状況平均【 B 】

取り組み内容
○国語科を中心に教員の指導力向上 に取り組む。
指標
○各教員は年間1回以上の研究授業を行い、指導力の向上を図る。
○校内児童アンケートにおける「国語の授業はよくわかりますか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を80%以上にする。
○校内児童アンケートにおける「授業では、学習していることを、すすんで、友だちと話し合っていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
○課題のある語彙力や話し合う力の向上を目指した取り組みを年間通して行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none">・研究授業を計画的に進めることができています。学年で協力して取り組むことができています。・国語タイムで豊かな話し合いを目指した取り組み(語彙力・話すこと聞くこと・読書・話し合うこと)が行われている。・校内アンケートの「国語の授業はよくわかりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が90%をこえている。・校内アンケートの「授業では、学習していることをすすんで友だちに話していますか」に対して肯定的に回答する児童が85%をこえている。ただ、あてはまらないと回答する児童も10%をこえている。・教員も児童も意欲的に取り組んでいる。
後期への改善点
<ul style="list-style-type: none">・今年度は研究授業で研究を終わるのではなく、国語科の研修会を開いて指導力向上に努めたり、国語タイムで色々な取り組みを行ったりと、意欲的に取り組んでいる。年度末に向けて継続して取り組み、その学年の目標とする豊かな話し合いを目指していく。・話し合いに参加しにくい児童へのサポートをどのように行うのかを考えていく。また、話し合いのまとめ方を考える。・自然と話し合いがはじまるような指導者の発問の工夫や授業展開の工夫を考え授業をつくっていく。

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（①） 番

まとめ役名前（渡邊 勇輝）

進捗状況平均【B】

取り組み内容

○低学年は、新たな端末に慣れ親しみ、3年生以上は、デジタル教材や協働学習支援ツール（TEAMS、ナビマ、スカイメニューなどを活用する。

指標

○校内アンケートを実施し、低学年は「タブレット端末での学習に 取り組みましたか。」の肯定的回答を 80%以上にする。3年生以上は「協働学習支援ツール（TEAMS、ナビマ、スカイメニューなどを利用して 友達の意見を聞くことができましたか。」の肯定的回答を 80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【結果】

○低学年の「タブレット端末での学習に 取り組みましたか。」の肯定的回答は、95%で指標を達成。
○3年生以上での「協働学習支援ツール（TEAMS、ナビマ、スカイメニューなどを利用して友達の意見を聞くことができましたか。」の肯定的回答は 89%で指標を達成。

【分析】

- ・低学年においてもタブレット端末の使用、学習での活用が日常的に行われるようになってきているのではないかと考えられる。
- ・数値としては、指標を達成しているものの、達成状況の調査では「取り組めていない」との回答もあった。クラスによって差があるように考えられる。

後期への改善点

- ・中間評価では、具体的な改善点が上がってこなかった。中間評価を記入した先生方もこの先どうしていけばよいのかのビジョンが見えていないからではないかと考えられる。
- ・学習への取り入れ方は様々で、学習活動に対して効果的に取り入れる必要があることから、授業者によって考え方が違い使用頻度にも差が生まれていると考えられる。
- ・系統立てた使用を行うとしても、それぞれが選択して使用する協働学習支援ツールにもばらつきがある。今後もこの指標で進めていくなれば、ある程度使用するツールを限定し、研修部主導のもと学校として効果的な使用を追求していく必要を感じる。
- ・アプリが月に何回開かれているのか、利用実績を見ることもできる。全市共通目標の「デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した学習を週1回以上実施する。」をもとに利用実績を指標にすることを視野に入れていくのも良いかもしれない。

学校運営の計画「学校評価」 中間評価分科会まとめ

取組内容（⑤） 番

まとめ役名前（ 宮下 健太 ）

進捗状況平均【 B 】

取り組み内容

- 子どもの体力・運動能力向上のために取り組みの充実を図る。
- 年間を通して柔軟性や投げる力の向上にむけた取り組みを行う。
- 子どもの体幹を鍛えるための取り組みの充実を図る。

指標

- 課題のある柔軟性・投げる力を高めるための取り組みを全学年で行う。
- 「長座体前屈」「ソフトボール投げ」の記録をとり、次年度で 70 %以上の児童が今年度の記録を上回るように継続的な取り組みを全学年で行う。
- 校内アンケート の「運動をするのは好きですか」の項目において、最も肯定的な回答をする児童の割合を 70 %以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・柔軟性においては、運動委員を筆頭にストレッチ・体幹のトレーニングの発表を通して、全学年に必要なことや正しいやり方を伝え、毎日の家庭学習につなげることができている。投げる力においては、1 学期はできていない。
- ・成長の過程も影響あるが、前年の記録を超えることができ、指標は達成している。
- ・最も肯定的な回答をする児童は 70 %をこえることができている。

後期への改善点

- ・柔軟性においては、どこまで家庭学習ができているか把握しづらいので、日々の体育の学習の初めに柔軟の運動もいれるようにする。投げる力は、2 学期にイベントを行う。また、常時投げる力が向上できるようなスペースを設け、子どもが主体的に行えるようにし。月に 1 回、休み時間に運動委員が距離をはかれるイベントを実施する。
- ・スポーツテストの項目を意識できる運動を体育の時間に実施しさらに伸びるように指導する。
- ・運動するのを好きにするには、まずは外にでることが最低条件なので、晴れて遊べるときはどんどん外で遊ぶように促す。

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（②）番

まとめ役名前（高橋 敬子）

進捗状況平均【 B 】

【1：安全・安心な教育環境の充実】

○「学校のきまり・規則」を常に児童が意識し、実践するように日々指導を行う。

指標

○
校内アンケートを実施し、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・肯定的な回答をした児童の割合は、97.2%であり指標を超えている。実態としては、きまりや規則を守らないといけないものであるという自覚はあるが、行動が伴わない児童がいる。

後期への改善点

- ・きまりを守ることが当たり前であるという雰囲気を校内で作れるよう、教職員が一貫した指導ができるようにする。

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（②）番

まとめ役名前（ 鈴木 健太 ）

進捗状況平均【 B 】

取り組み内容 教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になるようにする。
指標 教職員個人が持ち帰りの仕事を含めて、45時間以下の勤務外労働時間になるようにする。また、その教職員が全体では50%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none">・平均時間が22時間と昨年度と比較しても時間外勤務時間に向上がみられる。・学年別、校務分掌別、担当別、経験年数別、などで分析を行いその傾向と持ち帰りの業務、会議や研修等の精選を今後していく。
後期への改善点
<ul style="list-style-type: none">・様々な角度から取り組みを考え、実践していく。・持ち帰り業務の内容を知り、減らすことが可能なかどうかアンケートと分析を行う。・職員会議の時間短縮に努める。企画会を復活させ、案件の充実と会議のシンプル化を目指す。・教材研究の教科数減らし、学年間の繋がりを強化するため。教科担任制、チーム担任制などの取り組みを検討していく。

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（③）番

まとめ役名前（向山 美代子）

進捗状況平均【 B 】

取り組み内容

- 自尊心の向上に取り組むと共に、互いに思いやる心を育て、暴力行為を行う児童の減少に努める。

指標

- 児童に対する校内アンケートの「自分には好きなところがありますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・校内アンケートで、肯定的な回答をしている児童は88.1%で指標を上回っているが、最も肯定的な回答は51.1%で低く、自分に自信をもつことができずにいる児童が多いとみることができる。また、12%の児童が否定的な回答をしている。
- ・各学級で、道徳の学習や当番活動、日常の学習時間などさまざまな場で、多くの友だちと関りをもつことができるような活動や遊びを工夫して行っている。さまざまな活動に取り組むことを通して、友だちを尊重し、お互いを認め合う集団作りができてきている。しかし、自分の長所を認識できない児童や、自分に自信をもつことができている児童が一定数いるので、自分のよいところに気づくことができるような取り組みの工夫が必要である。

後期への改善点

- ・アンケートの項目が違っていたので、アンケートの項目を変更する。
- ・自分に欠点があったとしても、いいところもあるということを伝えていくことが必要である。
「いいところみつけ」の取り組みをさらにひろめ、友だちから感謝されたり、認められたりする経験を増やしていくことが大切である。
- ・積極的に褒めて、成功体験を増やしていくようにする。

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（③）番

まとめ役名前（ 柿本 茂美 ）

進捗状況平均【 B 】

取り組み内容

「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習に努める。

指標

○児童が主体的に ICT 機器を活用する学習場面を設定する。

○学習の中に、「自分で調べ考える」「小集団で話し合う」などの場を設定し、主体的で対話的な学びを推進する。

○校内アンケートにおける「外国語（英語）の学習は楽しいですか」に対して、3年生以上を対象に肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○学校全体で ICT 機器を活用する場面を積極的に取り入れ活用している。

○国語科の学習を中心に「一人学び」で自分の考えをもち、ペアや小集団で話し合うことで、主体的で対話的な学びを進めている。

○モジュールタイムやゲームなどを活用し、楽しく英語の学習を進めている。

後期への改善点

○今後も、児童が主体的に ICT 機器を活用するための場を工夫していく。

○すべての児童が、自分の考えをもって話し合い活動に参加できるような学習場面を工夫していく

○学年が上がるにつれ内容が難しくなっていくので、ALT と連携し、楽しく学習できる活動を取り入れていく。

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（④）番

まとめ役名前（ 青木 洋 ）

進捗状況平均【 B 】

取り組み内容

不登校児童対策において、保護者や関係機関と連携した取り組みを進め、不登校児童の割合を、前年度より減少させる。

指標

○年2回の児童理解研修会をもち、児童の状況を適切に把握し、保護者や関係機関と連携して状況に応じた多様な取組を行う。

○児童の状況把握をするための不登校児童対策委員会を月1回職員会議の場に設ける。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・児童理解研修会や毎月の不登校児童対策委員会において、児童の実態や状況把握し、情報共有と共通理解を図っている。また、保護者や児童とも連絡を取り合い、関係づくりに努めている。

後期への改善点

- ・引き続き、保護者と連携し、児童の状況を把握して、区役所やスクールカウンセラー等の関係諸機関とも連携しながら、不登校児童の改善に努めていく。

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（ ④ ） 番

まとめ役名前（ 山下 裕子 ）

進捗状況平均【 B 】

取組み内容④【5：健やかな体の育成】

○手洗いや口腔内衛生を保とうとする習慣が身につくように、自分の健康に関心をもたせる指導を行う。

○食事の大切さに関心が持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。

指標

○保健委員による週1回の清潔調べで、「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合をどの学級も80%以上にする

○歯科の要受診者の治療受診率を80%以上にする。

○元気もりもり週間において、「残さず食べた」と回答する児童の割合を90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合は学校全体で93%をこえている。保健委員会の清潔調べによりハンカチ、ティッシュを携帯する意識が高まってきている。しかし、学級単位でみると、ハンカチ、ティッシュの携帯率が低いところもあった。毎週の清潔調べや忘れ物0クラスの掲示、学級での取り組みによりハンカチ、ティッシュを持ってくることは意識できるようになってきている。
- ・歯科の要受診者の治療受診率は45.8%であった。
- ・元気もりもり週間において、「残さず食べた」と回答する児童の割合は97%をこえていた。自分で食べられる量を考えて食べることができている児童が増えてきている。

後期への改善点

- ・ハンカチ、ティッシュ忘れの児童への声かけ、家庭への呼びかけ、パーフェクト賞の表彰、学級での取り組みの工夫を行う。
- ・2・3学期の歯科衛生指導やCO・GO検診を通して、児童が歯と口の健康を考え、治療の必要性に気づけるようにするとともに、懇談時に保護者への啓発も行っていく。
- ・食べられる量には個人差があるので、自分で食べられる量を考え、すべて食べたとう満足感をつけられるように声掛けしていく。学級全体で残食ゼロを目指すなど学級で残さず食べるという意識がもてるような工夫をする。

学校運営の計画「学校評価」中間評価分科会まとめ

取組内容（⑤）番

まとめ役名前（ 藤井 志帆 ）

進捗状況平均【 B 】

取組み内容 【2：豊かな心の育成】

○異学年によるグループ活動や行事を通して、お互いの気持ちの交流を図り、協力することの大切さを学ばせる。

指標

○児童に対する校内アンケートの「友だちや違う学年の人とも仲良くできていますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合を70%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・校内アンケートの「友だちや違う学年の人とも仲良くできていますか」の項目について最も肯定的な回答をした児童の割合は67%であり、指標は達成できていない。しかし、肯定的な割合をした児童の割合は90%以上であった。
- ・たてわり班活動やつどい組などの取組みを通して、異学年の児童と交流することができた。しかし、たてわり班の中では気まずい雰囲気の班の姿も見られる。

後期への改善点

- ・たてわり班活動やつどい組での活動を今後も継続していく。
- ・たてわり班活動では、基本的には児童が主体となって取り組んでいくが、教師も班の様子を見ながら、集会の遊びに参加したり声掛けをしたりしていく。

学校運営の計画「学校評価」 中間評価分科会まとめ

取組内容（⑥） 番

まとめ役名前（鈴木 愛）

進捗状況平均【 B 】

取り組み内容

○挨拶は人とのつながりがうまれることを児童に指導することを通して進んで挨拶ができる児童を育成する。

指標

- 校内アンケートの「『ありがとう』という言葉で家族や友だちに感謝の気持ちを伝えることができましたか。」の項目を「はい」と答えた児童の割合を 85 %以上にする。
- 校内アンケートの「『学校の先生やクラスメイト』『地域の見守り隊』『学校へのお客様』に対して進んで挨拶をしていますか。」において、肯定的な回答をした児童の割合を90 %以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・指標は達成しているが、感謝の気持ちを伝えることは大切であることは理解していても、自信がなかったり恥ずかしいと感じたりする児童もありアンケート結果とのずれがある。
- ・指標は達成しているが、実際の児童の様子は進んで挨拶できている児童は結果より少ないと感じる。校門での挨拶で満足し、廊下階段や教室での挨拶まで至らない児童もいる。

後期への改善点

- ・「ありがとう」の気持ちを伝えることの大切さを継続指導していく。また、そのような場面をひろいあげられる教職員側の視野を広くもつ。学校便りなどを通して、家庭への啓発を促していく。
- ・挨拶は、礼儀の面だけではなく、互いに気持ちよく生活するために必要なことであり、防犯の面でも効果的であるなどを児童へ知らせる。また、教職員が模範となる行動を示していくことが肝要である。